

## 「仕事の流儀と趣味」

臨床検査科支部 河口 豊（8期生）

一生涯の仕事のプロセスにおいては、3つのステージがあると考えている。すなわち、①様々な仕事を覚える段階、②仕事に磨きをかけると同時に中間管理職としての役割を発揮する段階、③管理職として仕事を統括し後進の育成を図る段階、である。そして、重要なのは、どのステージでも常に業務の改善と自己のスキルアップに努め、「ここまでできれば十分」と思わず、新たな目標を設定し前進することである。

私は、1983年、川崎医科大学附属病院中央検査部に就職し、4部署を経験して31年が経過した。最初の10年はがむしゃらに仕事に覚えると同時にいくつかの資格を取得した。次の10年は、上司の指導を受けながら、学会発表や論文投稿などを積み重ねた。仕事の傍ら放送大学で単位を習得後、2002年学位認定機構にて学士を取得した。入職25年頃になると後進の育成を強く意識するようになった。自分自身も放送大学大学院修士に挑戦しつつ、後輩の資格取得や学術活動の支援を行ってきた。入職30年頃、後輩達も業績を積み重ね、若いスタッフを指導できるまでに成長した。そして、自分の課題であった修士も取得し、世代交代も順調に進んでおり、今は非常にパッピーである。

さて、趣味も年を追うごとに変遷していった。若い頃は登山に没頭した。何回かに分けて走破した後立山連峰は思い出深い山行であった。その後は仕事中心の生活となり、趣味は封印され、家庭も犠牲にすることがいくらかあった。最近では、部下にも恵まれたせい或少し心の余裕もでき、学生の頃からの夢であった大型バイクの免許に挑戦した。そして、ついにハーレーダビッドソン XL1200N、通称ナイトスターを購入した。これからは、趣味も楽しみながら、仕事でも新しい目標にもチャレンジしたなあとと思っている。

